CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

大学運動部活動の実態

——関東・東北ブロック男女バレーボール選手を対象にして——

藤原　　徹，松井　匡治

目　的

一般に，各種の運動部やチーム，スポーツクラブ等のスポーツ集団の持つ機能として，課題(目標)達成機能 (task performance function) あるいはP機能と集団維持機能 (group maintenance function) あるいはM機能とがある。さらに付け加えるならば，スポーツ集団の構成員である成員 (member) 一人ひとりの個人的な欲求（要求）充足の機能をあげることができる。これらの機能は，相互に関連し合い，影響を及ぼしながら，全体として機能することになる。

ところで，スポーツ集団における各成員の個人的な欲求の充足をはかりつつ，集団全体を特定の集団目標の達成へと向かわせ，しかも集団を全体としてまとまった形で存続維持させていくうえで，リーダーシップの機能が重要な役割を果たすことはいうまでもない。

さらに，リーダーシップ機能を果たすうえで，部員外にあっては部長，監督およびコーチ等の指導者のあり方が，部員内にあってはキャプテンやマネージャー等のリーダーのあり方が特に重要な課題となる。そして，リーダーに求められている課題達成の機能と集団維持の機能との調整をはかりながら，しかも成員個人の欲求を充足させるためには，リーダー自身が優れた個人的特性を持つとともに，リーダーの組織と機能が確立していることもまた大事な要件となる。

本研究で取り扱う大学運動部においても，部長，監督およびコーチ等は，指導者であるとともに，部やチームのリーダー組織の一員であり，彼らのリーダーシップのとり方が部やチームの存続・発展に多大なる影響を及ぼしている。

本研究では，大学運動部の一つであり，集団的スポーツであるバレーボール部の選手を対象にして，被指導者側である部員の運動部活動そのものに対する適応の状態や考え方，あるいは部長，監督およびコーチ等の指導者側に対する要求などの実態を把握することによって，大学運動部（バレーボール部）の指導に資する資料を得ることを主たる目的としている。

方　法

方法は，質問紙調査法による。調査の内容は，別添資料の『運動部活動に関する調査』の通りであり，フェイス・シート項目（5項目）と本調査項目（9項目）とから構成される。

フェイス・シート項目は，学校種別，学年，性別，所属運動部（運動部名，ポジション，レギュラー選手・非レギュラー選手，経験年数等)，出場した大会の中での最高レベルなど，対象者の属性を調べる項目である。

本調査項目は，入部の主な動機（Q 1），運動部の成績や状態に対する満足度とその理由（Q 2），運動部の継続意思と退部したいと思う者の主な理由（Q 3），特に悩んでいることや困っていることの有無とその内容（Q 4），部長・監督・コーチ・トレーナー等の指導者の有無（Q 5），練習計画やトレーニング計画の決定者（Q 6），けがやからだの故障に対する処置とその内容（Q 7），日常生活(合宿所生活を

含む)，練習，あるいは試合のときに監督やコーチ等の指導者に特に望んでいることの有無とその内容（Ｑ８），授業と運動部活動との関係についての考え方（Ｑ９）などを調べる項目である。大学・短期大学別に調査用紙を配布し，無記名で記入してもらい，回収した。

調査の対象者は，関東ブロックと東北ブロックの大学および短期大学のバレーボール部の選手，男子は12大学の134名，女子は11大学および１短期大学の132名，合計266名である。

対象者の内訳は，関東ブロックに関しては，男子では，Ａ大学（関東リーグ１部；12名)，Ｂ大学(同１部；11名)，Ｃ大学（同２部；12名)，Ｄ大学（同２部；12名)，Ｅ大学（同３部；８名)，Ｆ大学(同３部；12名)，Ｇ大学（同４部；10名）の合計77名である。女子では，Ｍ大学(関東リーグ１部；12名)，Ｎ大学（同１部；12名)，Ｏ大学（同２部；12名)，Ｐ大学（同２部；12名)，Ｑ大学（同２部；10名）の合計58名である。

東北ブロックに関しては，男子では，Ｈ大学(東北リーグ１部；18名)，Ｉ大学（同１部；12名，Ｊ大学（同１部；16名)，Ｋ大学（同２部；６名)，Ｌ大学（同２部；５名）の合計57名である。女子では，Ｒ大学（東北リーグ１部；18名)，Ｓ大学（同１部；11名)，Ｔ大学(同１部；10名)，Ｕ大学（同１部；12名)，Ｖ大学(同２部；６名)，Ｗ大学（同２部；10名)，Ｘ大学（同２部；７名）の合計74名である。

対象者の学年別は，１年生75名（28.2％)，２年生87名（32.7％)，３年生70名（26.3％)，４年生34名(12.8％)である。ポジション別では，センター70名(26.3％)，レフト67名（25.2％)，セッター43名(16.2％)，ライト40名（15.0％)，レシーバー29名（10.9％)，その他（２以上のポジション，マネージャー等）17名（6.4％)となっており，センターとレフトとで約半数を占めている。また，対象者のうち，約半数の者はレギュラー選手（131名；49.2％）である。平均経験年数については，関東ブロックでは，男子が７年７カ月，女子が８年11カ月であり，概して女子の方が長い。東北ブロックでは，男子が７年２カ月，女子が８年３カ月であり，やはり女子の方が長い。男女とも関東ブロックより経験年数が短いが，これは，男子のＫ大学（３年１カ月）と女子のＸ大学（４年10カ月）が，他大学と比べて経験年数が際立って短いことによるものであり，これらの大学を除くと，平均経験年数において男女とも関東ブロックの大学との差がみられない。

対象者が出場した大会の中での最高レベルをみると，関東ブロックでは，男子のうち，関東リーグ１部に所属する大学は，オリンピック・世界選手権レベルの大会から全国レベルの大会までの範囲に分布しており，高い競技実績を有している。関東リーグ２部から４部までの大学は，ほぼ日本選手権・国体レベルの大会から全国レベルの大会までの経験者で占められている。女子のうち，関東リーグ１部に所属する大学は，男子の２部から３部までの大学と同様な傾向を示し，日本選手権・国体レベルの大会から全国レベルの大会までの経験者である。これに対して，女子の２部の大学は，ほぼ日本選手権・国体レベルの大会から各学連のリーグ戦レベルの大会の経験者で占められている。

一方，東北ブロックでは，男子のうち，東北リーグ１部に所属する大学は，１部・２部とも，ほとんどの者は日本選手権・国体レベルの大会から県レベルの大会まで広く分布している。女子では，東北リーグ１部の大学は，日本選手権・国体レベルの大会から全国レベルの大会までの経験者である。２部の大学では，ほとんどの者は全日本インカレ・東日本インカレレベルの大会から各学連のリーグ戦レベルに分布している。

調査期間は，1994年（平成６年）６月下旬から９月上旬までである。

結果と考察

結果の整理と考察は，以下，質問項目の配列

順にしたがって，主として，関東ブロック（関東リーグ）と東北ブロック（東北リーグ）の2つのブロック別および男女の性別とに基づいて行う。また，バレーボール部とそれ以外の運動部活動の実態との相違点を指摘するために，1991年と1993年に，本学体育学部の運動部（男子24種目，女子16種目）に所属する675名（男子526名，女子149名）の学生を対象に，松井が実施した「運動部活動に関する実態調査」の結果[1)2)]のうち，バレーボール部（男子35名，女子25名）を除いた615名の結果（以下，本学の調査結果と略称）との比較考察も行うこととする。

はじめに，対象者である大学および短期大学における，いまの運動部（バレーボール部）に入部した主な動機（Q1）は，表1に示す通りである。関東・東北ブロックや男子・女子に関係なく，全体的に，谷嶋ら[3)]のいう勧誘的要因によるもの（「スカウト(勧誘)されて」，「中学校・高等学校の先生や監督・コーチにすすめられて」，「両親，きょうだい，親類にすすめられて」，「先輩や友人にすすめられて」など）が多い。その割合は，関東ブロックの男子（63.7%），同女子（52.9%），東北ブロックの男子（50.0%），同女子（46.8%）の順である。勧誘的要因の中では，両ブロックおよび男女とも，共通して，「中学校・高等学校の先生や監督・コーチにすすめられて」入部する者の割合が最も高く，30%程度であるが，関東ブロックの男子では，「スカウト(勧誘)されて」入部する者も多い（25.5%）のが特徴的である。

つぎに，全体的にみて，「自分の意志で決めて」入部する者（38.2%）が多い。しかし，男女別にみると，男子と比べて女子の割合が高く，東北ブロック女子（45.7%），関東ブロック女

表1　入部の主な動機

単位：名（ただし，複数回答）

ブロック別 / 動機 / 性別	関東ブロック 男子	関東ブロック 女子	関東ブロック 計	東北ブロック 男子	東北ブロック 女子	東北ブロック 計	合計
1　スカウト(勧誘)されて	26 (25.5)	3 (4.4)	29 (17.1)	3 (5.2)	9 (9.6)	12 (7.9)	41 (12.7)
2　中学校・高等学校の先生や監督・コーチにすすめられて	31 (30.4)	23 (33.8)	54 (31.8)	18 (31.0)	19 (20.2)	37 (24.3)	91 (28.3)
3　両親，きょうだい，親類にすすめられて	3 (2.9)	4 (5.9)	7 (4.1)	3 (5.2)	6 (6.4)	9 (5.9)	16 (5.0)
4　先輩や友人にすすめられて	5 (4.9)	6 (8.8)	11 (6.5)	5 (8.6)	10 (10.6)	15 (9.9)	26 (8.1)
5　全国大会等の出場をめざして	5 (4.9)		5 (2.9)		2 (2.1)	2 (1.3)	7 (2.2)
6　その運動部の知名度や実績が高いから	3 (2.9)		3 (1.8)		2 (2.1)	2 (1.3)	5 (1.6)
7　自分の意志で決めて	27 (26.5)	31 (45.6)	58 (34.1)	22 (37.9)	43 (45.7)	65 (42.8)	123 (38.2)
8　その他	2 (2.0)	1 (1.5)	3 (1.8)	7 (12.1)	3 (3.2)	10 (6.6)	13 (4.0)
計	102	68	170	58	94	152	322

（注）（　）内は，比率(%)をあらわす。

子（45.6%），東北ブロック男子（37.9%），関東ブロック男子（26.5%）の順である。関東ブロックの男子の割合が低いのは，勧誘的要因のスカウトの占める割合が高いことと関連しているものと思われる。なお，全体として，谷嶋らのいわゆる達成的要因（「全国大会等（アジア大会・世界選手権・オリンピック大会）の出場をめざして」）による者（2.2%）や憧憬的要因（「その運動部の知名度や実績が高いから」）による者（1.6%）は極めて少ない。

運動部に対する適応状況はどうであろうか。まず，いまの運動部の成績や状態に対する満足度（Q２）に関する結果(表２)では，「たいへん満足している」者はごく少なく，女子では全くいない。「たいへん満足している」者と「満足している」者とを合わせても，概して，男子の方が女子よりやや割合が高く，東北ブロック男子（33.3%），関東ブロック男子（29.9%），関東ブロック女子（27.6%），東北ブロック女子(17.6%）の順である。

一方，全体的に，「たいへん不満である」者も極めて少なく８%ないし９%程度の割合にすぎない。「不満である」者と「たいへん不満である」者とを合計すると，男子よりも女子の方の割合が高く，関東ブロック女子（37.9%），東北ブロック女子（36.5%），同男子（31.6%），関東ブロック男子（23.4%）の順となり，女子の方が不満である者の割合が高い。また，全体的にみて，「どちらともいえない」者の割合（41.4%）が高い。

本調査の結果と松井による本学の調査結果(ただし,自分や運動部の成績に対する満足度についての結果)とを比較すると，満足度の全体的傾向や，女子では「たいへん満足している」者が全くいないことなどは,共通した傾向である。

つぎに，満足度の理由をみてみよう。まず，「たいへん満足している」と「満足している」と答えた者71名のうち，その理由を述べている43名の内容(ただし，複数回答)では，「レベルが高く強いあるいは成績がよい」(11名)，「人間関係や雰囲気がよい」（９名)，「練習内容がよい」（６名)，「楽しんでやれる」（６名)，「充実していて，やりがいがある」（３名）などが主なものである。

「どちらともいえない」という者110名のうち，理由を述べている60名の内容（ただし，複

表２　運動部の成績や状態に対する満足度

単位：名

ブロック別 / 満足度 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合　計
	男　子	女　子	計	男　子	女　子	計	
1　たいへん満足している	4 (5.2)		4 (3.0)	4 (7.0)		4 (3.1)	8 (3.0)
2　満足している	19 (24.7)	16 (27.6)	35 (25.9)	15 (26.3)	13 (17.6)	28 (21.4)	63 (23.7)
3　どちらともいえない	36 (46.8)	20 (34.5)	56 (41.5)	20 (35.1)	34 (45.9)	54 (41.2)	110 (41.4)
4　不満である	12 (15.6)	17 (29.3)	29 (21.5)	13 (22.8)	21 (28.4)	34 (26.0)	63 (23.7)
5　たいへん不満である	6 (7.8)	5 (8.6)	11 (8.1)	5 (8.8)	6 (8.1)	11 (8.4)	22 (8.3)
計	77	58	135	57	74	131	266

(注)（　）内は，比率(%)をあらわす。

数回答）では「もっと上位にいけるはず」(13名)，「もっと上位をめざしている」（9名)，「成績がよくない」（9名)，「成績がよいとも悪いともいえない」（6名)，「優勝していない」（4名）など，部の成績に基づいた評価が多い。その他では，「部員が少ない」（4名)，「入部して間もない」（3名）などがあげられている。

さらに，「不満である」と「たいへん不満である」者85名のうち，理由をあげている65名の内容（複数回答）は，やはり部の成績に関するものが多く，「成績が悪いあるいは勝てない」(19名)，「もっと上位をめざしている」(10名)，「もっと上位にいけるはず」（9名)，「いくら練習しても成績があがらない」（7名）などである。その他，東北ブロックでは，「部員が少ない」（7名）ことの不満も述べている。

運動部の継続意思（Q 3）については，大部分の者が継続意思を持っていて，表3に示すように，全体的にみると，「ずっと続けていきたい」(62.0％）と「できれば続けていきたい」(24.8％）とを合わせると約87％の割合を占める。特に，関東ブロックの女子（98.2％）と男子（89.6％）に継続意思が強く，ついで東北ブロックの女子（83.7％)，男子（75.4％）の順である。概して，部の満足度が低いにもかかわらず，部の継続意思は強いといえる。

運動部の継続意思に関して，「できればやめたい」，「すぐにでもやめたい」，あるいは「わからない」と答えた者33名の理由(複数回答)を調べてみる。

「自分の自由な時間がとれないから」(15名）と「部費や遠征費などに費用がかかりすぎるから」(14名）など，時間的な問題と経済的な問題が相当なウエイトを占めていることが分かる。ついで，「けがやからだの故障などが思うように回復しないから」（7名)，「就職試験の準備をしたいから」（7名)，「ほかの運動種目をやりたいから」（7名)，「体力がなく，これ以上運動を続けることができないから」(6名)，「練習が厳しいから」（5名)，「指導者（監督やコーチなど）がきらいだから」（5名)，「健康がすぐれないから」（4名)，「部のきまりや方

表3　運動部の継続意思

単位：名

ブロック別 / 継続意思 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合　計
	男　子	女　子	計	男　子	女　子	計	
1　ずっと続けていきたい	50 (64.9)	47 (81.0)	97 (71.9)	32 (56.1)	36 (48.6)	68 (51.9)	165 (62.0)
2　できれば続けていきたい	19 (24.7)	10 (17.2)	29 (21.5)	11 (19.3)	26 (35.1)	37 (28.2)	66 (24.8)
3　できればやめたい	7 (9.1)		7 (5.2)	5 (8.8)	4 (5.4)	9 (6.9)	16 (6.0)
4　すぐにでもやめたい				2 (3.5)	1 (1.4)	3 (2.3)	3 (1.1)
5　わからない	1 (1.3)	1 (1.7)	2 (1.5)	7 (12.3)	5 (6.8)	12 (9.2)	14 (5.3)
無　回　答					2 (2.7)	2 (1.5)	2 (0.8)
計	77	58	135	57	74	131	266

(注)（　)内は，比率(％)をあらわす。

針についていけないから」（4名）の順である。

運動部の継続意思に関しては，本調査の結果と本学の調査結果とでは，ほとんど同じような傾向を示しており，両者とも，部の満足度は低いが，継続意思は比較的高いといえる。「やめたい」と答えた理由として，時間的な問題と経済的な問題とが上位を占めている点もまた，両者に共通している。

運動部活動，合宿所生活，あるいは家庭・学校生活などにおいて，特に悩んでいること，困っていること（Q4）について，「ある」と答えた者は74名で，対象者全体の27.8%に過ぎない(表4)。しかし，74名についてブロック別にみると，関東ブロックの男子(14.3%)や女子(24.1%)の割合と比べて，東北ブロックの男子(42.1%）や女子(33.8%)の割合の方が高い。

悩みごとや困りごとが「ある」と答えた者74名のうち，その内容を記述している61名の結果（複数回答）は，表5に示してある。内容は多岐にわたるが，相対的にみて，「経済的な問題」，「生活時間」や「生活環境」など，生活上の問題が上位を占めている。ここでは，遠征費等の費用がかかること，拘束時間が長くて自分の時間や自由な時間がとれないこと，帰宅が遅くなること，遠距離通学で睡眠時間が短いこと，風呂や水洗トイレの設備がないこと，などがあげられている。ついで，部員が少ないことや部員をうまくリードしていけないことなど，「部の体制，運営」の問題，勉強不足による単位の未修得や勉学と部活動との両立など，「学業」に関する問題，けがやからだの故障が思うように回復しないことや持病があることなど，「健康状態やけが」に関すること，対人関係やマネージャーとの関係がうまくいかないなど，「人間関係」の問題，小人数での練習方法や試合会場がまちまちで遠いなど「練習や試合」に関するもの，などがあげられている。部の指導者に関するものはほとんどみられない。

本調査で，悩みごとや困りごとが「ある」と答えた者の割合のうち，関東ブロックの男子と女子の結果は，本学の調査結果と同様の傾向を示している。また，その内容については，本学の調査結果では「生活環境」の問題がほとんどみられないが，それ以外の問題ではほぼ共通している。

つぎに，指導体制，特に指導スタッフの面ではどのような状況であろうか。運動部における顧問・部長・監督・コーチ・トレーナー等の指導者の有無（Q5）については，回答の内容をみると，関東ブロック・東北ブロックの男子・女子とも，どの部にも例外なく監督がいる。顧問と部長に関しては，関東ブロックのE大学(男子)，M大学（女子）およびN大学（女子），東北ブロックのI大学（男子）とT大学（女子）など5つの大学では，顧問か部長のいずれ

表4　悩みごと・困りごと

単位：名

ブロック別 / 有無 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
1 ある	11 (14.3)	14 (24.1)	25 (18.5)	24 (42.1)	25 (33.8)	49 (37.4)	74 (27.8)
2 ない	66 (85.7)	44 (75.9)	110 (81.5)	33 (57.9)	48 (64.9)	81 (61.8)	191 (71.8)
無回答					1 (1.4)	1 (0.8)	1 (0.4)
計	77	58	135	57	74	131	266

(注)（　）内は，比率(%)をあらわす。

表5　悩みごと・困りごとの内容

単位：名（ただし，実数61名の複数回答）

ブロック別 / 内容 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
部の体制，運営について		1	1	2	4	6	7 (9.6)
練習や試合について		1	1		3	3	4 (5.5)
人間関係について				2	3	5	5 (6.8)
健康状態や怪我について	1	2	3		2	2	5 (6.8)
学業や就職について	4		4	1	1	2	6 (8.2)
生活環境について	1		1	6	2	8	9 (12.3)
生活時間について		7	7		3	3	10 (13.7)
経済的な問題について		1	1	2	8	10	11 (15.1)
その他	4	2	6	5	5	10	16 (21.9)
計	10	14	24	18	31	49	73

（注）（　）内は，比率(%)をあらわす。

かを置いているが，その他の大学では顧問と部長の両者ともいる。コーチを設けていないのは，関東ブロックでは，D大学（男子），F大学（男子）およびG大学（男子）の3つの大学であり，東北ブロックでは，I大学（男子），L大学（男子），V大学（女子）およびW大学（女子）など4つの大学であり，その他の大学ではコーチを置いている。トレーナーを置いている大学は少なく，トレーナーがいるのは関東ブロックでは，C大学（男子），M大学（女子），N大学（女子）およびO大学（女子）の4つの大学である。東北ブロックでは，H大学（男子），R大学（女子）およびS大学（女子）の3つの大学である。

練習計画やトレーニング計画の決定者はどうであろうか（Q6）。表6に示す通り，全体としてみると，「監督・コーチ・トレーナーなどと主将・上級生とで決めた計画にしたがっている」という者（35.7%），すなわち，丹羽[4]のいう主脳型の中の「部主脳型」が最も多い。ついで，「監督・コーチ・トレーナーなどが決めた計画にしたがっている」者（22.2%），丹羽のいう「部員外型」と，「主将や上級生が決めた計画にしたがっている」者（21.1%），いわゆる主脳型の中の「部員内主脳型」とがほぼ同じ割合で続く。これらの型と比べて，いわば民主的に「部員全員で決めた計画にしたがっている」者（2.3%），すなわち「部員型」とか，「自分で考えたり，工夫したりしている」者（3.0%）あるいは「仲間と考えたり，工夫したり

表6　練習計画やトレーニング計画の決定者

単位：名

決定者＼ブロック別・性別	関東ブロック 男子	関東ブロック 女子	関東ブロック 計	東北ブロック 男子	東北ブロック 女子	東北ブロック 計	合計
1　監督・コーチ・トレーナーなどが決めた計画にしたがっている	18 (23.4)	11 (19.0)	29 (21.5)	23 (40.4)	7 (9.5)	30 (22.9)	59 (22.2)
2　監督・コーチ・トレーナーなどと主将・上級生とで決めた計画にしたがっている	33 (42.9)	34 (58.6)	67 (49.6)	3 (5.3)	25 (33.8)	28 (21.4)	95 (35.7)
3　主将や上級生が決めた計画にしたがっている	12 (15.6)	5 (8.6)	17 (12.6)	16 (28.1)	23 (31.1)	39 (29.8)	56 (21.1)
4　部員全員で決めた計画にしたがっている	2 (2.6)		2 (1.5)	2 (3.5)	2 (2.7)	4 (3.1)	6 (2.3)
5　仲間と考えたり，工夫したりしている				1 (1.8)		1 (0.8)	1 (0.4)
6　自分で考えたり，工夫したりしている	6 (7.8)		6 (4.4)	2 (3.5)		2 (1.5)	8 (3.0)
7　そ の 他	6 (7.8)	8 (13.8)	14 (10.4)	10 (17.5)	14 (18.9)	24 (18.3)	38 (14.3)
無 回 答					3 (4.1)	3 (2.3)	3 (1.1)
計	77	58	135	57	74	131	266

（注）（　）内は，比率(%)をあらわす。

している者」(0.4%）の割合は極めて少ない。

関東ブロックの男子および女子では，割合の多い方からみて，「部主脳型」，「部員外型」，「部員内主脳型」の順である。東北ブロックの男子では，「部員外型」と「部員内主脳型」の割合が大きく，「部主脳型」はごく少ない。一方，東北ブロックの女子では，「部員外型」が少なく，多くは「部主脳型」と「部員内主脳型」で占められており，本調査における女子の結果は，本学の調査とほぼ一致している。

丹羽らの報告[5]によれば，ラクビー部について，戦績と権限構造型との関係をみると，強いラクビー部ほど，概して，「部員外型」や「部主脳型」の構造をもつ部が多く，「部員内主脳型」や「部員型」では弱い部が多くなる傾向がみられることを指摘している。このことと関連して，本調査の結果では，東北ブロックよりも関東ブロックの方が「部主脳型」が多く，「部員外型」については，東北ブロックの男子により多い。

けがやからだの故障などで，練習や試合に参加できないとき，どんな処置をしているだろうか。特に，監督・コーチ・トレーナーなどとの話し合いはどうであろうか（Q７）。

表７に示す通り，全体的には，「なんらかの処置あるいは話し合いをしている」と述べている者は171名（64.3%）である。関連して，けがやからだの故障などに対する処置の内容（複数回答）は，表８に示してある。処置の方法では，けがや故障したところを使わないで，「できる範囲でトレーニングする」という者が最も多い。その内訳をみると，体力づくりや体力補強のためのトレーニングとか，ウエイトトレーニングまたは筋力づくりのためのトレーニングが多く，なかにはイメージトレーニングを行っ

表7　けがやからだの故障に対する処置

単位：名

ブロック別 / 処置 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
なんらかの処置あるいは話し合いをしている	39 (50.6)	45 (77.6)	84 (62.2)	38 (66.7)	49 (66.2)	87 (66.4)	171 (64.3)
特にしない	8 (10.4)	4 (6.9)	12 (8.9)	5 (8.8)	3 (4.1)	8 (6.1)	20 (7.5)
けがをしたことがない	7 (9.1)	6 (10.3)	13 (9.6)	8 (14.0)	6 (8.1)	14 (10.7)	27 (10.2)
無回答	23 (29.9)	3 (5.2)	26 (19.3)	6 (10.5)	16 (21.6)	22 (16.8)	48 (18.0)
計	77	58	135	57	74	131	266

(注)（　）内は，比率(%)をあらわす。

表8　けがやからだの故障に対する処置の内容

単位：名（ただし，実数171名の複数回答）

ブロック別 / 処置の内容 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
監督，コーチあるいはトレーナーなどと話し合って決める	7 (13.7)	21 (33.9)	28 (24.8)	4 (11.4)	17 (27.0)	21 (21.4)	49 (23.2)
自分の意志や考えで決める	3 (5.9)	1 (1.6)	4 (3.5)	3 (8.6)	8 (12.7)	11 (11.2)	15 (7.1)
医師などによる治療やリハビリに専念する	9 (17.6)	13 (21.0)	22 (19.5)	17 (48.6)	14 (22.2)	31 (31.6)	53 (25.1)
見学する	5 (9.8)		5 (4.4)	1 (2.9)		1 (1.0)	6 (2.8)
できる範囲でトレーニングする	15 (29.4)	23 (37.1)	38 (33.6)	7 (20.0)	21 (33.3)	28 (28.6)	66 (31.3)
部やチームとは別メニューで練習する	1 (2.0)	1 (1.6)	2 (1.8)				2 (0.9)
テーピングをして練習あるいは試合に参加する	3 (5.9)	1 (1.6)	4 (3.5)	2 (5.7)	1 (1.6)	3 (3.1)	7 (3.3)
無理をしてでも練習あるいは試合に参加する	4 (7.8)	1 (1.6)	5 (4.4)	1 (2.9)	1 (1.6)	2 (2.0)	7 (3.3)
その他	4 (7.8)	1 (1.6)	5 (4.4)		1 (1.6)	1 (1.0)	6 (2.8)
計	51	62	113	35	63	98	211

(注)（　）内は，比率(%)をあらわす。

ている者もいる。つぎに多いのは，「医師などによる治療やリハビリに専念する」という者である。その内訳は，病院や接骨院へ行く，安静にする，休む，何もしないこと，などによって治るまでは練習や試合に参加しないというものである。その他では，「見学する」とか「部やチームとは別メニューで練習する」という者もいるが，「テーピングをして練習あるいは試合に参加する」とか「無理をしてでも練習あるいは試合に参加する」者は少ない。

「監督・コーチあるいはトーナーなどと話し合って決める」という者の割合は，全体で23.2％であるが，男子と比べて女子の割合の方が高い。しかし，自分で処理するかまたは話し合って決めているかは，各自の故障の程度や状況にもよると思われるので，この結果だけに基づいて判断することはできないであろう。

運動部の指導者（監督やコーチなど）に，特にこうしてほしいと望んでいることがあるかどうか（Ｑ８）の結果は，表９に示してある。無回答者（57.9％）が多く，必ずしも対象者の意向を十分に反映しているとは思えないが，「ある」と答えた者は77名（28.9％）に過ぎない。ちなみに，本学の調査結果でも「ある」と答えている者の割合は23％程度である。しかし，東北ブロックの男子では，関東ブロックの男子・女子や東北ブロックの女子と比べて，「ある」という者の割合がやや高い（40.4％）。

以下,「ある」と答えている77名の内容（複数回答）について，日常生活，練習および試合の３つの場面に分けて考察してみる。

まず，日常生活について述べている23名の内容では，「自主性にまかせてほしい」（３名），「私生活まで干渉しないでほしい」（３名），「休みがほしい」（３名）などが主なものである。その他では，生活時間に関するものとして，「風呂の時間を長くしてほしい」，「門限を遅くしてほしい」，「もう少しゆっくり寝かせてほしい」などがある。

練習についての要望が最も多く，52名が回答を寄せている。特に目立っている事柄は，「効果的，能率的な練習をしてほしい」(19名）ということである。その内訳をみると，練習時間が長すぎるので無駄のない練習や短期集中の練習，効率的でもっと工夫のある練習などを強く望んでいる。その他では，「練習に来てほしい」（８名），「細かいところ（技術）まで指導してほしい」（４名），「一人ひとりの能力や個性をもっと見極めてほしい」（３名），「試合に生かせる実践的な練習をしてほしい」（３名），「差別しないで，平等に扱ってほしい」（３名）などがその主な内容である。

練習のときに望むことの内容のなかで，本調査結果と本学の調査結果とに共通して比較的多

表９　指導者に望むこと

単位：名

ブロック別 / 有無 / 性別	関東ブロック			東北ブロック			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
ある	22 (28.6)	11 (19.0)	33 (24.4)	23 (40.4)	21 (28.4)	44 (33.6)	77 (28.9)
ない	13 (16.9)	10 (17.2)	23 (17.0)	4 (7.0)	8 (10.8)	12 (9.2)	35 (13.2)
無回答	42 (54.5)	37 (63.8)	79 (58.5)	30 (52.6)	45 (60.8)	75 (57.3)	154 (57.9)
計	77	58	135	57	74	131	266

（注）（　）内は，比率(％)をあらわす。

いものは，「効果的，効率的な練習をしてほしい」ことと，「練習に来てほしい」こととである。その他の内容は，本学の調査結果でも指適されている事柄である。

試合については，回答を寄せている77名のうち，29名の者が要望を述べている。内容では，「大声を出したり，口うるさく言わないでほしい」（5名），「やる気を起こさせるような言葉をかけてほしい」（4名），「適切な助言あるいは指示をしてほしい」（4名），「どっしりと構えててほしい」（3名），「試合に出してほしい」（3名）などがその主な内容である。試合のときに望むことの主な内容は，「試合に出してほしい」という要望を除いて，本学の調査結果でも同様に指摘されている事柄である。

授業と運動部活動との関係について，どのように考えているであろうか（Q 9）。無回答者63名を除いて，対象者266名のうち，回答した者203名についてみると，表10の通り，関東・東北ブロック別や男女の性別に関係なく，回答者の半数の者が「両立させるべきである」（51.7%）と考えている。学生であるから両立させるのが当然，どちらも大事，対等，文武両道，などの考え方である。さらに，「授業と部活動は別のものである」から割り切って考えるべきである（14.8%）とか，「両立させるべきであるが，とても難しい」（5.9%）という意見も，基本的には両立させるべきであるという立場であると思われるので，回答者の約70%強の者は，授業と部活動は両立させなければならないと

表10　授業と運動部活動との関係について

単位：名

ブロック別 / 性別 / 内容	関東ブロック 男子	関東ブロック 女子	関東ブロック 計	東北ブロック 男子	東北ブロック 女子	東北ブロック 計	合計
両立させるべきである	28 (51.9)	26 (53.1)	54 (52.4)	20 (51.3)	31 (50.8)	51 (51.0)	105 (51.7)
授業と部活動は別のものである	5 (9.3)	9 (18.4)	14 (13.6)	3 (7.7)	13 (21.3)	16 (16.0)	30 (14.8)
両立させるべきであるが，とても難しい	4 (7.4)	2 (4.1)	6 (5.8)	1 (2.6)	5 (8.2)	6 (6.0)	12 (5.9)
授業優先に考えている	5 (9.3)	6 (12.2)	11 (10.7)	5 (12.8)	4 (6.6)	9 (9.0)	20 (9.9)
部活動優先に考えている	4 (7.4)	2 (4.1)	6 (5.8)	2 (5.1)	4 (6.6)	6 (6.0)	12 (5.9)
授業と部活動の両立はできない		1 (2.0)	1 (1.0)				1 (0.5)
自分で大事だと思う方に力を入れればよい		1 (2.0)	1 (1.0)				1 (0.5)
その他	5 (9.3)	1 (2.0)	6 (5.8)	8 (20.5)	3 (4.9)	11 (11.0)	17 (8.4)
特に考えたことはない	3 (5.6)	1 (2.0)	4 (3.9)		1 (1.6)	1 (1.0)	5 (2.5)
計	54	49	103	39	61	100	203

（注）（　）内は，比率(%)をあらわす。

いう健全な考え方を持っているといえるであろう。その他では，「授業優先に考えている」(9.9％）者とか，「部活動優先に考えている」(5.9％）者も含まれているが，その割合はいずれも低い。

要約と課題

関東ブロック(関東リーグ)と東北ブロック(東北リーグ)の大学・短期大学のバレーボール部の選手，男子は12の大学の134名，女子は11の大学および１つの短期大学の132名，合計266名を対象に，『運動部活動に関する調査』を実施した。得られた主な結果は，以下の通りである。

1）バレーボール部入部の主な動機として，ほとんどの者は，中学・高校の先生や監督・コーチにすすめられて，あるいはスカウトされてなどの勧誘によって，または自分の意志で決めて，と答えている。

2）運動部（バレーボール部）の成績や状態に対する満足度は，概して低く，満足・不満足の「どちらともいえない」者や「不満である」者の方が多い。その主な理由には，部の成績に関するものが多い。

また，部の満足度が低いにもかかわらず，大部分の者は運動部を継続したいという意思を持っている。「やめたい」または「わからない」と答えている者は全体の１割強であり，その主な理由には，時間的制約および経済的負担の問題が大きな比重を占めている。

3）運動部活動，日常生活，学校生活などで，特に悩んでいること・困っていることが「ある」という者の割合は，全体の28％程度にすぎないが，関東ブロックと比べて，東北ブロックの男子・女子の方の割合が幾分高い。その内容には，経済的な問題，生活時間の問題，生活環境の問題など，生活上の問題が上位を占めている。

4）日常生活，練習および試合のいずれかの場面で，運動部の指導者（監督・コーチなど）に特に望んでいることが「ある」という者の割合は，全体の28％程度にすぎない。

5）指導スタッフについては，どの運動部にも監督がいて，顧問と部長の両者またはそのいずれかが置かれている。対象となった23の大学・短期大学のうち，７つの大学ではコーチを置いていない。トレーナーを置いている大学は少なく，７つの大学にすぎない。

練習やトレーニング計画の決定者については，関東ブロックの男子・女子では，丹羽のいわゆる「部主脳型」が比較的多く，「部員外型」，「部員内主脳型」の順である。東北ブロックの男子では，「部員外型」が比較的多く，「部員内主脳型」が続く。一方，東北ブロックの女子では，「部主脳型」と「部員内主脳型」とが比較的多い。また，どの部にも，「部員型」はほとんどいない。

6）けがやからだの故障などに対する処置や，その際の指導者（監督・コーチなど）との話し合いについては，「なんらかの処置あるいは話し合いをしている」という者は，全体の64％程度の割合である。処置の内容では，「できる範囲でトレーニングする」または「医師などによる治療やリハビリに専念する」という者が比較的多い。

7）授業と運動部活動との関係についての考え方としては，回答者203名（対象者全体の76％程度）の70％強の者は，基本的には，授業と部活動は「両立させるべきである」と考えている。「授業優先」または「部活動優先」に考えている者は少ない。

今後の課題としては，この調査結果をふまえて，競技力レベルやレギュラー・非レギュラー等による相違点についても，比較検討を加えていきたい。

終わりに，本研究の調査実施にあたり，資料収集にご協力いただき，ご助言をいただいた本学の松本昌三教授，ならびに調査にご協力いただいた各大学と短期大学の関係者各位に対しまして，深甚なる謝意を表します。

引用文献

(1) 松井匡治 1993 運動部活動に関する実態調査，仙台大学紀要，24，127～153.

(2) 松井匡治 1994 運動部活動に関する実態調査(2)，仙台大学紀要，25，103～123.

(3) 谷嶋喜代志他 1988 体育専攻学生のスポーツ参加の動機に関する研究，スポーツ心理学研究，15－1，78～85.

(4) 丹羽劭昭 1966 運動集団の構造と機能，奈良女子大学文学会年報，9，93～115.

(5) 丹羽劭昭他 1992 戦績での強さからみたラグビー部の権限構造と集団魅力，体育学研究，37－1，29～43.

参考文献

(1) 山本教人 1990 大学運動部への参加動機に関する正選手と補欠選手の比較，体育学研究，35－2，109～119.

(2) 山下秋二他 1985 スポーツクラブ員の満足・不満足構造――指導者問題への対応化を中心として――，体育学研究，30－3，195～212.

(3) 桂 和仁・中込四郎 1990 運動部活動における適応感を規定する要因，体育学研究，35－2，173～185.

(4) 青木邦男 1989 高校運動部員の部活動継続と退部に影響する要因，体育学研究，34－1，89～100.

(5) 稲地裕昭他 1992 中学生の運動部活動における退部に関する研究：退部因子の抽出と退部予測尺度の作成，体育学研究，37－1，55～68.

(6) 阿江美恵子 1991 体育専攻学生におけるスポーツからのドロップアウト，スポーツ心理学研究，18－1，82～83.

(7) 坂手照憲他 1985 スポーツ選手の強化を妨げている要因――スポーツ指導における心理的問題――，スポーツ心理学研究，12－1，33～35.

(8) 矢作 晋他 1986 スポーツ選手の強化を妨げている要因(Ⅱ)――競技会の水準別からみた心理的悩みとその解決法――，スポーツ心理学研究，13－1，87～91.

(9) 森田勇造 1987 現代スポーツ指導者の条件，体育科教育，35－13，10～13.

(10) 豊田一成 1993 スポーツ心理学――スポーツ指導者の社会心理――，(株)アイオーエム.

運動部活動に関する調査

調査者　仙台大学体育学部
調査日　平成____年____月____日

この調査は、運動部員である皆さんに、運動部での活動の様子をお知らせいただくとともに、指導者(顧問、部長、監督、コーチ、トレーナーなど)の指導の仕方や、運動部のあり方などについて、日ごろ、どんなことを思ったり、感じたりしているかを、おたずねするものです。結果は、全体をとりまとめて扱いますので、名前を書く必要はありません。どうぞ、ありのままを答えてください。

記入するさいの注意

1）質問をよく読んで、あてはまる番号や記号に○印をつけ、必要な事柄を（　　）の中に、または、_____のところに書いてください。
2）すべての質問に答えてから提出してください。
3）この調査で、運動部または部とは、学校での運動部（部活)、運動部のサークルやクラブのことです。
4）この調査で、指導者とは、顧問・部長・監督・コーチ・トレーナーなどのことです。

まずはじめに、**あなたご自身のことについておたずねします。**

F 1　**あなたがいまいる学校は：**
1　_____大学　　2　_____短期大学　　3　その他（_____）

F 2　**あなたの学年は：**
1　1学年　　2　2学年　　3　3学年　　4　4学年　　5　その他（_____）

F 3　**あなたの性別は：**
1　男　　2　女

F 4　**あなたがいま所属している、学校での課外活動としての運動部（運動部のサークル・クラブ）と、その経験年数は：**
1　学校での運動部（運動部のサークル・クラブ名）_____部（サークル・クラブ）
2　あなたの専門種目やポジションを書いてください（例：陸上競技部の短距離、バレーボール部のレフト、レシーバー、サッカー部のゴールキーパー）_____
3　あなたは、現在、レギュラー選手（正選手）ですか。
ア　レギュラー選手　イ　レギュラー選手ではない　ウ　その他（_____）
4　その運動部（サークル・クラブ）の経験年数の合計は____年____月（小・中学校から現在までの、その運動部の経験年数を全部足してください）

F 5　**あなたが出場した大会の中で、最も高いレベル（成績も含めて）のものは、次のどれですか。ひとつだけ選んでください。**
なお、レベルは1から18までの番号順で、1が最高のレベルです。
1　オリンピック・世界選手権レベルの大会（_____位入賞）
2　オリンピック・世界選手権レベルの大会（参加）

3　アジア大会や数ヶ国対抗形式の国際レベルの大会（＿＿＿位入賞）
4　アジア大会や数ヶ国対抗形式の国際レベルの大会（参加）
5　日本選手権・国体の大会（＿＿＿位入賞）
6　日本選手権・国体の大会（参加）
7　全日本インカレ・東日本インカレレベルの大会（＿＿＿位入賞）
8　全日本インカレ・東日本インカレレベルの大会（参加）
9　その他の全国レベルの大会（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿大会＿＿＿位入賞）
10　その他の全国レベルの大会（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿大会参加）
11　地域ブロックレベルの大会（アジア大会レベルや全国大会レベルの予選大会、都道府大会、東北地方大会、など）（＿＿＿位入賞）
12　地域ブロックレベルの大会（アジア大会レベルや全国大会レベルの予選大会、都道府大会、東北地方大会、など）（参加）
13　各学連のリーグ戦（＿＿＿部＿＿＿位入賞）
14　県レベルの大会（＿＿＿位入賞）
15　県レベルの大会（参加）
16　郡区市町村レベルの大会（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿大会＿＿＿位入賞）
17　郡区市町村レベルの大会（参加）
18　大会に出場したことがない

つぎに、あなたが、**いま所属している、学校での課外活動としての運動部**（運動部のサークル・クラブ）**での活動の様子をお知らせいただくとともに、指導者**（顧問・部長・監督・コーチ・トレーナーなど）**の指導の仕方や、運動部**（サークル・クラブ）**のあり方などについて、**日ごろ、どんなことを思ったり、感じたりしているかを、**おたずねします。**

Q 1　**あなたが、いまの運動部（サークル・クラブ）に入部（所属）した主な動機をお知らせください。**
あてはまるものすべてに○をつけてください。
1　スカウト（勧誘）されて
2　中学校・高等学校の先生や監督・コーチにすすめられて
3　両親、きょうだい、親類にすすめられて
4　先輩や友人にすすめられて
5　全国大会等（アジア大会・世界選手権・オリンピック大会）の出場をめざして
6　その運動部（サークル・クラブ）の知名度や実績が高いから
7　自分の意志で決めて
8　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Q 2　**あなたは、いまの運動部（サークル・クラブ）の成績や状態に満足していますか。**
ア　運動部の成績や状態に対する満足度：
1　たいへん満足している
2　満足している
3　どちらともいえない
4　不満である
5　たいへん不満である

イ　アで選んだ答えの理由を書いてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Q 3　**あなたは、いまの運動部（サークル・クラブ）をこのまま続けたいと思いますか。**

ア　運動部を続けることについて：

1　ずっと続けていきたい
2　できれば続けていきたい
3　できればやめたい
4　すぐにでもやめたい
5　わからない

イ　アで、**3　できればやめたい　4　すぐにでもやめたい　5　わからない、と答えた方にだけおたずねします。**

やめたいあるいはわからないと**答えた主な理由**をお知らせください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　健康がすぐれないから
2　けがやからだの故障が思うように回復しないから
3　体力がなく、これ以上運動を続けることができないから
4　受験勉強をしたいから
5　就職試験の準備をしたいから
6　自分の自由な時間がとれないから
7　いまの運動種目が自分に合わないから
8　技術や成績が思うように伸びないから
9　ほかの運動種目をやりたいから
10　練習が厳しいから
11　部（サークル・クラブ）のきまりや方針に、ついていけないから
12　自分の意見が、指導者（監督やコーチなど）やチームに、取り入れてもらえないから
13　指導者（監督やコーチなど）がきらいだから
14　しごきや体罰が加えられるから
15　部員・クラブ員との人間関係がうまくいかないから
16　選手やチームなどに、やる気がないから
17　施設や場所などが十分でないから
18　部費や遠征費などに費用がかかりすぎるから
19　家族などに反対されるから
20　なんとなく
21　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Q 4　**あなたには、運動部（サークル・クラブ）活動、合宿所生活、あるいは家庭・学校生活などにおいて、特に悩んでいること、困っていることがありますか。**

1　ある（どんなことですか）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2　ない

Q 5　**あなたが所属している運動部（サークル・クラブ）には、監督、コーチ、トレーナーなどがいますか。**あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　顧問
2　部長
3　監督
4　コーチ
5　トレーナー
6　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Q 6　**あなたは、どのようにして練習計画やトレーニング計画を決めていますか。**あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　監督・コーチ・トレーナーなどが決めた計画にしたがっている
2　監督・コーチ・トレーナーなどと主将・上級生とで決めた計画にしたがっている
3　主将や上級生が決めた計画にしたがっている
4　部員全員で決めた計画にしたがっている
5　仲間と考えたり、工夫したりしている
6　自分で考えたり、工夫したりしている
7　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Q 7　**あなたは、けがやからだの故障などで、練習や試合に参加できないとき、どんな処置をしていますか。特に、監督、コーチ、トレーナーなどとの話し合いはどうですか。**

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Q 8　**あなたは、運動部（サークル・クラブ）の指導者（監督やコーチなど）に、特にこうしてほしいと望んでいることがありますか。**

ア　ある
　それはどんなことですか：
　1　日常生活（合宿所生活を含む）のときに＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
　2　練習のときに＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
　3　試合のときに＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

イ　ない

Q 9　**あなたは、授業と運動部（サークル・クラブ）活動との関係について、どのように考えていますか。あなたの考えをお知らせください。**

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力、どうもありがとうございました。

Conditions of Athletic Club (Team) Activities in Universities, Colleges and Junior Colleges

— Through the Investigation of Male and Female Volleyball Players and their Activities in Kanto and Tohoku Regional Blocks —

Toru FUJIWARA and Masaharu MATSUI

The purpose of this research is to investigate actual states of club activities of volleyball players in universities, colleges and junior college for gaining useful data for volleyball coaching.

The data of this research was obtained by the questionnaires consisting 14 items administered from June through September 1994.

Subjects were 134 male and 132 female volleyball players who belonged to sport clubs of universities, Colleges and junior college in the Kantoregion Block and the Tohokuregion Block in Japan.

Main findings of this research were as follows :

1. A large percentage of the subjects expressed dissatisfaction with their club's results in competitions and their club's existing conditions.

   However, most of the players stated that they would like to continue club activities.

2. About 30 percent of the subjects had worries or troubles, and had requests for better leadership (supervisor, coach, etc.).